

人工芝生メンテナンス機

取扱説明書
パーツリスト

MR-1200



株式会社IHシバウラ

グリーン事業部 松本市石芝1-1-1
TEL 0263(88)0201 FAX 0263(26)7517

この度は MR-1200 人工芝メンテナンス機を御購入頂き、誠に有難うございました。
この取扱説明書を熟読して頂き、正しく御使用頂くよう御願ひ申し上げます。
より詳しいことが御知りになりたい場合、又は専門的な技術サービスが必要な場合には、
貴社の地域を担当する弊社営業所、代理店に御連絡ください。
また、部品を御発注頂く際には、必要とする部品番号、部品名、数量に製造番号を必ず
御知らせください。
製造番号プレートは本体フレーム前方右側に有ります。
いつでも製造番号を参照出来る様、この番号を下記に記録しておくことをおすすめ致します。


型 式 MR-1200 型 製造番号.....号

尚、弊社では絶えず、研究開発を続けております。従って一部変更により、本書と食
い違う場合もありますが、御了承願ひます。
御気付、御不明な点につきましては、御買上げの弊社販売店、代理店に御相談ください。

1 安全作業の為に

- 本製品をご使用する前に必ずこの取扱説明書をよく読み、十分理解したうえで安全かつ、スムーズな作業を行ってください。
- 服装は作業に適したものを着用してください。
袖口などは機械に巻き込まれないようしまったものを着てください、特にヘルメットの使用をお願い致します。
- 作業前には必ず始業点検を行ってください。
(詳細は 6-2 始業点検の項をお読みください。)

1-1 警告ラベルについて

本書に記載した注意事項や機会に貼られた  の表示がある警告ラベルは人身事故の危険が考えられる重要な項目です。



危険 ……その注意事項に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになる事があります。



警告 ……その注意事項に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになる事があります。



注意 ……その注意事項に従わなかった場合、けがを負うことになる事があります。

2 特長

- 本製品は、人工芝ゴムチップの擦り込みブラッシング、ほぐしとならしを目的に開発された機械です。また振動ふるい機によりフィールドのごみや、芝生の切れカス等もきれいに除去しもち上がったゴムチップは再び人工芝にもどします。

3 仕様

機種	MR-1200
作業方法	トラクターPTO駆動
搬送	トラクター3点吊り上げ式
回転ブラシ	1100xφ310
作業幅	1100 mm
作業深度	0 ~ 40 mm
重量	390 kg
作業能力	2000 ~ 2500 m ³ /h
全長	1450 mm
全巾	1376 mm
全高	910 mm
ブラシミッション	正逆転ワンタッチレバーで切替

4 使用前の注意 危険

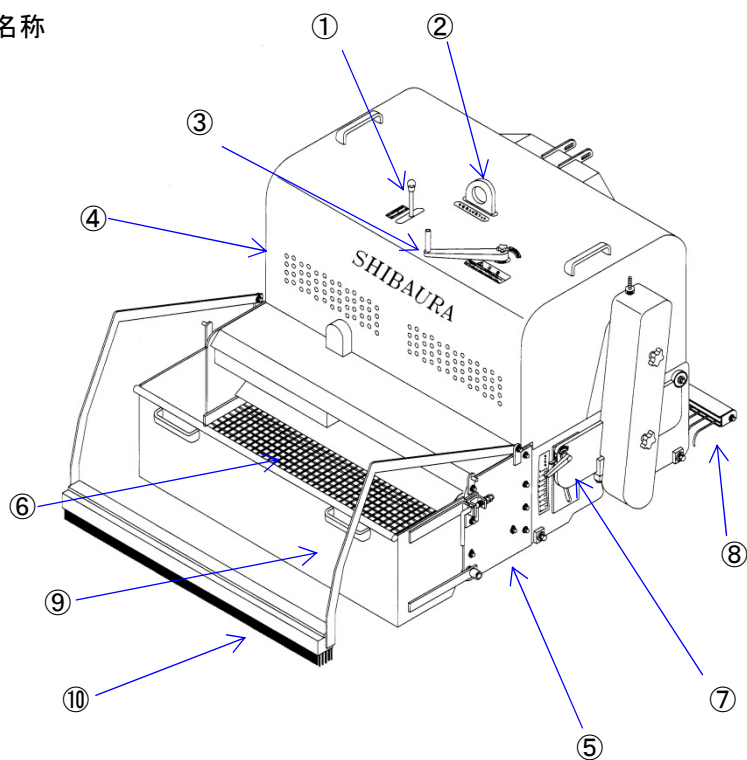
- (1) 始業点検
本機を使用する前には点検を行なってください。
- (2) 作業者の限定
次に該当する人は、本機の走行、作業に従事しないでください。
 - ①酒気を帯びた人
 - ②若年層
 - ③未熟練者
 - ④ 過労、病気、薬物の影響、又はその他の理由により正常な走行作業が出来ない人

* ②、③に該当する人がやむを得ず作業する場合、指導員及び熟練者の補助をお願いします。
- (3) 目的外使用の禁止
本機は、サッカー場など人工芝のメンテナンス機です。それ以外の目的で使用される場合、機械の安全に関して保障できませんので、ご注意ください。
- (4) 改造等の禁止
本機の改造は危険ですので、改造しないでください。
改造した場合メーカー保障の対象外になるのでご注意ください。
- (5) 保護カバーの装着
安全の為にある保護カバー類は常に取付けてください。
- (6) 本機運搬時の注意
本機は乗用タイプではありませんので、トラクターの 3 点ヒッチに取付け、吊り上げて作業場まで運搬してください。尚、一般道路では絶対に本機を取付けて走行しないでください。
(トラクターへの取付けは確実にピンをさし、外れ防止を必ずしてください。)
- (7) 火気厳禁
本機はエンジンを搭載していませんが、必要がないかぎり火気は近づけないでください。
- (8) 運転作業の徹底
運転作業は慎重に、脇見、手放し運転などは絶対にしないでください。
- (9) 密閉室内でのエンジン始動禁止
本機はエンジンを搭載していませんが、牽引車両のエンジンは密閉した室内及び換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。排気ガスが空気を汚してガス中毒を起こす危険がありますから、十分喚気には注意してください。

- (10) やけどに注意
本機はエンジンを搭載していませんが、牽引車両のエンジン回転時及びエンジン停止直後のマフラーなどは、高音の為触るとやけどをしますから注意してください。
- (11) 回転部に注意
機械作動中は、ブラシ部やチェーン部に手や足などを近づけないで下さい。巻き込まれて大怪我をする危険がありますので、十分注意してください。
- (12) 駐車時の安全確認
本機を駐車する場合、トラクターを水平に保てる地盤のよい場所に駐車させ、サイドブレーキを曳き、本機を降ろしてください。
- (13) 夜間走行、作業の禁止
本機は前照灯の装備を備えていないので、夜間の走行、作業はしないでください。
- (14) 異常を感じた時
運転中に異常を感じた時、直ちに安全な場所に止めて適切な処置を取ってください。
- (15) 作業での安全確保
事故防止のため、作業現場付近には、人を近づけないでください。

5 運転

5-1 各部の名称



- ① ブラシ回転、正転・逆転切換えレバー
- ② 吊り上げフック
- ③ ブラシ高さ調節ハンドル
- ④ 本体カバー
- ⑤ 振動ふるいフレーム
- ⑥ 金網
- ⑦ クランプレバー
- ⑧ レーキ
- ⑨ ダストボックス
- ⑩ 擦り込みブラシ

5-2 エンジンスタート、ストップ

トラクター取扱説明書を参照

5-3 発進方法

トラクター取扱説明書を参照

5-4 作業手順と操作

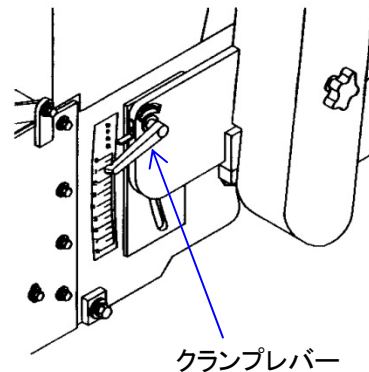
(1) 本機とトラクターをジョイントする

- ① トラクター後部ロアリンクに本機を取付ける。
- ② ドライブシャフトをトラクターと本機に取付ける。
- ③ トラクタートップリンクを本機に取付ける。
- ④ 本機を吊上げ、トップリンクの伸縮により、作業時の角度が水平に成るように調整する。
- ⑤ トラクターチェックチェーンを調整し、本機が横揺れしないように調整する。
- ⑥ 本機を下した時に、フリー状態になるよう全体的に調整する。

注) 本機を吊り上げた時、ドライブシャフトのスライド部が長い場合はスライド部をカットして調整してください。

(2) ブランの高さ調整

フレームの両サイドにあるクランプレバーを緩め、
ブラシ高さ調節ハンドルを回転させて高さを決めてください。
(高さの目安として1回転約3mmブラシが上下
します)
ブラシ高さが決定すれば、左右のクランプレバーを確実に
締め付けてから作業をしてください。



(3) 本機の移動

本機を吊上げて、トラクターにて作業現場まで移動してください。

(4) 清掃作業

- ① 正転逆転切り替えレバーを逆転側にする。
- ② 作業速度を3~5km/hになるようにチェンジレバーを調整する。
- ③ エンジン回転数を2400rpm(PTO回転400~600rpm)に合わせてください。
- ④ 本機を少し浮かせた状態でトラクターのPTOレバーを入れ、ブラシを回転させながら 走行して本機を下ろして作業してください。

(5) 擦り込み作業

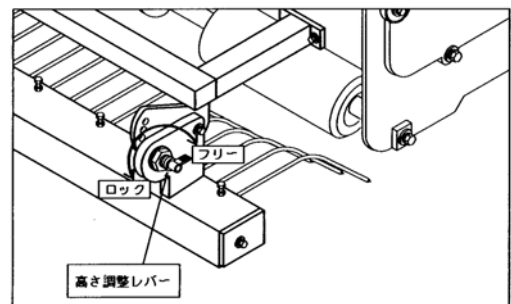
- ① 正転逆転切り換えレバーを正転側にする。
- ② 作業速度を3~5km/hになるようにチェンジレバーを調整する
- ③ エンジン回転数を2400rpmに合わせてください。
- ④ トラクターのPTOレバーを入れ、ブラシを回転させながら走行して作業をしてください。

(6) ほぐしと均し作業

- ① 本機を吊上げた状態で、スプリングレーキの深さを調整して下さい。

高さ調整レバーをフリー側に倒して高さを決めて
下さい。高さが決まれば高さ調整レバーをロック
側に倒して固定して下さい。

- ② ならば本機後部のならばブラシを下げて作業を
行って下さい。



5-5 作業上での注意

- (1) PTOを入れる場合本機を下ろしたままで入れずに、少し浮かせた状態に入れ、機械に与える衝撃を少なくするようにしてください。
- (2) ドライブシャフトは、30度以上の角度では回転させないでください。
- (3) PTO回転数を上げすぎると、ミッションに負荷が掛かりすぎたり、ギヤボックスからのオイルの吹き上げの原因となります。
- (4) 高速で作業をすると速すぎて作業の効能がない場合があります。



注意

- (5) 急発進、急停止は本機やトラクターに大きな衝撃がかかり危険ですから注意してください。

5-6 機械を離れるときの注意



危険

本機を離れる場合、機械を水平に保てる地盤のよい場所に停車させ、トラクターのブレーキをロックして本機を下ろしてください。尚、トラクターのエンジンは必ず停止してください。

6 保守、点検

6-1 メンテナンスの注意

- (1) 実施するメンテナンスを熟知してください。
- (2) メンテナンスは乾燥したきれいな場所で行なってください。
- (3) メンテナンスは必ず機械の作動を停止して行なってください。
- (4) 部品は良い状態で正しく取付けてください。
- (5) 損傷部品は直ちに修理、交換してください。
- (6) 磨耗損傷部品は交換してください。
- (7) ゴミやグリス、オイルの付着は取り除いてください。

6-2 始業点検

1	前日使用の異常箇所
2	各部、ボルト、ナット、ピン類の、緩み点検、調整
3	各部の給油脂状態
4	レーキ状態(磨耗、歪みなど)

6-3 定期点検

メンテナンス \ 運転時間	8H 毎	50H 毎	100H 毎	200H 毎	300H 毎	500H 毎	オーバー ホール時
各ベアリング	○						△
各ボルト、ナット	○						△
各部の給油脂	○						△
レーキ	○						△
ミッションのオイル					●		

○……点検、調整、補給、清掃

●……交換

△……オーバーホール